



声 明

「伊那谷の地域防災力の向上は、自ら、地域から、そして行政との連携で」

三六災害50年実行委員会では、災害の実態を再認識すると共に、教訓として後世に継承し、水害・土砂災害に備えた地域づくりを目指すため、関係機関が情報を共有し、積極的に啓発活動を実施してきました。

これら成果が、それぞれの地域で継承され、防災力の向上に役立てられるよう、地域防災に係わる様々な主体に対し、以下の取り組みを推進されるよう呼びかけることとします。

1. 記録資料や取り組み実績を活用し将来に引き継ぐ

災害を語り継ぐ一助とするため、記録資料を地図情報化するなど、地域で幅広く活用されるための情報提供に努めましょう。

2. 避難行動に結びつく防災学習を継続する

小中学校や自治会単位などで、自発的な防災学習の取り組みが芽生え、継続・定着化されるよう、取り組みを実施・支援しましょう。

3. 地域防災コミュニティーの強化を目指した防災学習を発展させる

災害伝承と地域の歴史や文化との結合によって、地域防災の取り組みの輪が広がるよう、地域での交流・連携に重きを置いた防災学習の取り組みを発展させましょう。

平成 23 年 12 月 14 日
三六災害50年実行委員会